

大阪食育フォーラムⅣ開催

平成 23 年 9 月 27 (火)、KKR ホテル大阪 3F に於いて「大阪食育フォーラムⅣ」主催：大阪食育連絡会議〔JA 大阪中央会(社)大阪府栄養士会・大阪スローフード協会〕が約 280 人の参加を得て開催されました。

「大阪の食育を考える」との主旨のもと、4 回目の開催となった今回は、第 1 部のイベント報告、第 2 部の基調講演、第 3 部のパネルディスカッションの 3 部構成で行われました。今回はその中の 1 部、2 部について報告します。

まず(社)大阪府栄養士会・酒井会長の開会挨拶に続き、来賓代表の近畿農政局大阪地域センター・松本次長の挨拶がありました。

第 1 部は 2011 年夏休み食育イベント「食のルーツ探検隊・お米の巻き」をテーマに(株)ニチレイフーズ、マルコム(株)、六甲バター(株)、築野食品工業(株)、百姓市起の 4 企業 1 団体の、「催

行イベントの内容及びその成果」についての報告会で、今回参加した企業・団体が一様に、「イベントに参加した子ども達とその家族を通して、食に関わる企業・団体として、食育の大切さとその必要性を今まで以上に深く認識した」と強調されていました。ある企業からは、参加した子ども達の中の一人が今回の食育体験を夏休みの自由研究のテーマに取り上げ、そのレポートを持参して見せてくれたとの喜びの後日談が披露されました。子ども達の熱心で素直な吸収力に食育事業に参加した意義を再確認すると共に、未来を担う子ども達の心身共に健やかな成長に影響を及ぼす食に携わる企業・団体として、これからもなお一層の研究・開発に取り組んでいくとの決意表明が感じられる報告会でした。

「一次産業をカッコよくて、感動があって、稼げる 3K に」

講師 NPO法人農家のこせがれネットワーク
代表理事CEO 宮治 勇輔氏



第 2 部の講師である宮治氏は、時代のフロントランナーといわれる人物で、大学卒業後一流企業に就職するも独学で一次産業を学び、その強い思いから 2005 年に企業を退職し、家業の「養豚業」を継ぎ、生産から流通までの一貫したプロデュースや「みやじ豚」としてのブランド化に注力し、一次産業をクリエイティブに展開しています。まさに「きつい、汚い、カッコわるい 3K」を表題のごとく 180 度イメージ転換し、農業をはじめとする一次産業の後継者である「こせがれ」に夢と希望だけではなく、実質的に将来性のある魅力あふれる産業に牽引していく活力を与えている起業家にお見受けしました。氏の改革の一例を挙げると、以前は食肉の流通価格に生産者の思い

や努力は全く反映されず、生産者の名前も敢えて伏せることにより、特定の生産者だけの一極集中を招かないことが、ひいては安定した市場価格及び流通に繋がるといのが食肉業界の常識だったそうです。それを覆し、消費者に美味しいものを提供する使命や権利を主張し、そのためには美味しい豚を育て市場に流通させ、その正当な対価としての価格を自らが設定することで、生産者の仕事へのやりがいや誇りを取り戻したとのことでした。2009 年に 21 世紀の農業を支える新たな仕組み作りのために設立された「NPO 法人農家のこせがれネットワーク」は、今では全国に張り巡らされ、農業をはじめとする第 1 次産業の将来を担う後継者やその関係者の大いなる希望とパワーの源になっているとの思いが強く伝わってくる力強いお話でした。

(文責 地活 小堀佳子)